

令和2年（2020年）10月8日

三島駅前南口
三島東区再開発

「地下水影響ない建設を」

対策委 水位など調査結果報告

三島市の第6回三島駅前周辺開発地下水対策検討委員会（辻村真貴委員長）が7日、三島市民文化会館会議室で開かれた。東街区再開発事業に関して、溶岩層の厚さや地

下水位など地盤調査結果の報告があり、地下水に影響を与えない建設計画の基本方針を確認した。

三島駅前南口東街区市街地再開発準備組合が1月に実施した調査に

よると、計画エリアでは駅の東に向かって層厚が薄くなり、地下水はそれよりも深い深度で確認されているとした。

同事業では、高層棟、中層棟、低層棟、立体駐車場の建設が計画されているが、中でも高層棟は溶岩層が最も厚い層厚10メートル以上のエリアに予定されているという。

また、事業関係者へのモニタリングでは、地盤調査の結果を踏まえ、地下水位や建物の重量を支える基盤などが工事、掘削に影響することを確認し、調査や工法について検討する回答を得たという。

辻村委員長は「今後も適切な検討を進めていく」と述べた。同事業については、11月に都市計画決定の告示が予定されている。



あいさつする辻村委員長と委員ら
三島市民文化会館